
領域名：老年保健看護

報告者：大城 風佳

教育及び実践の課題

老年期は、引退や重要他者との死別、療養による生活の場の移動などのライフイベントから社会関係の喪失及び縮小が指摘されている。その中で高齢者は社会関係を喪失しながらも、新たな社会関係を形成できる強みがある。老年保健看護の講義、実習では、高齢者の社会関係そのものを強みと捉え重視している。しかし、社会の与えるシステムの中で社会関係を形成することが中心となる学生の世代にとって、高齢者の社会関係を形成するプロセスはイメージしづらく、強みとして捉えにくいことが課題である。

活用した論文の概要

この論文は、高齢者の社会的排除に関する文献のクリティカルレビューにより、高齢者の社会的排除の概念モデルを提案している。モデルは Bronfenbrenner の人間生態学的枠組み（クロノシステム）の概念を取り入れ、個人のリスク因子・社会関係・心理社会的資源と社会情勢のプロセス・遠位成果という4つの柱が双方向に影響し、好循環にも負の循環にもなりうるという関係性を示した。また、時間の経過と共に社会の文化的・構造的・環境的な文脈の影響があること、遠位成果間の関連性として帰属意識と孤独感の相互関係のように排除を強化しうる性質があることの可能性を示唆している。新しい視点として、高齢者の望むまたは必要とする社会関係と達成した社会関係を評価・査定することをモデルの中心に位置づけ、遠位成果への道筋に不可欠な構成要素として強調している。

教育及び実践への活用

老年保健看護Ⅰでは、高齢者が身体的、精神的、社会的影響をうけながら社会関係を喪失する中で、新たな社会関係を形成する様について、領域の研究成果を具体例として用いて解説している。老年保健看護Ⅱでは、就労支援、社会貢献への支援の研究成果を用いて紹介している。今回、高齢者の社会的排除の概念モデルにより、これらの支援が参加を目標として位置付けるだけでなく、高齢者自身の望む、あるいは高齢者自身が必要と考える社会関係と現実の社会関係のギャップを埋める支援としても位置付けられ、心理社会的資源・社会情勢プロセスへのアプローチとしても着目する必要性を強調した。これらの視点を用いて、看護卒業論文・看護統合演習のテーマ選定では、社会参加だけでなく、本人の望む社会関係を形成する手段として活動を位置付けることを取り入れた。その結果、活動のための外出支援ではなく、本人の望む社会関係に参加するための支援をすることで遠位成果が得られることが複数事例で報告された。

参考文献

Burholt V., Winter B., Aartsen M. A critical review and development of a conceptual model of exclusion from social relations for older people. *European Journal of Aging*, 2020;17:3-19
